

## 留学期間

6 か月（2019 年 8 月下旬～2020 年 2 月中旬）

## 派遣先大学

ローズハルマン工科大学（アメリカ）

## 必要経費

【渡米前に必要な経費】	
査証取得費用	¥38,000
予防接種費用	¥20,000
往復航空代	¥240,000
海外旅行保険料	¥100,000
【渡米後に必要な経費】	
図書・学用品	¥20,000
その他雑費・おこづかい	¥200,000
【派遣先大学へ納入する諸費用】	
食費	¥350,000
保険料	¥90,000
その他（PC レンタル料）	¥40,000
小計	¥1,098,000
派遣留学修学支援金	△ ¥250,000
こぶし会支援金	△ ¥250,000
合計（実費）	¥598,000

## このプログラムを選んだ理由

学部の時、留学生と関わるイベントへの参加や留学生と共にインターンシップを経て、専門性だけではなく、英語力の必要性を感覚的に感じたため留学しようと考えました。

## 現地での学習内容について

信号処理の分野を中心に学びました。具体的には生体信号処理・画像処理・音声処理など様々な面から学ぶことができました。課題の量はとても多いですが、勉強の支援サービスは手厚いです。また、上記のように様々な分野から自分の専門を学べる環境でもあります。

日本語のクラスもあるため、先生からの了承の上でお手伝いさせていただきました。

## 学習以外に取り組んだ活動について

学校行事はいくつか大きなものがあり、大きなキャンプファイヤーや寮対抗戦の運動会のようなイベントも行われます。

## 宿舎について

寮の中では一番新しい Lake side 1 の 1 階に住んでいました。1 階は主に 2 年生が住んでいて、基本的には 1 人のルームメイトとシェアです。私のルームメイトはインディアナ州出身のアメリカ人でした。トイレ・シャワーは共有で、キッチンフロアに 1 つあります。フロアのラウンジには卓球台やピアノ、大型液晶画面などがあります。

## 最も印象に残っていること

学生の授業中の発言の頻度が多いことです。少しでも疑問に思ったことはその時に質問します。先生と生徒の距離が近く、授業前後も会話が絶えません。そのため、私としても質問しやすく学びやすい環境でした。

## この大学のおすすめポイント

専門性をさらに高められる環境だと思います。この大学では、座学だけでなく実験やチームワークも重視しています。そのため、これまで学んだことがあることでさえ実験やチームメイトとの意見交換から様々な発見が得られます。

## 現地で心掛けたこと

計画表を作ることです。毎日のように課題が出てきて、それが 3 科目になると混乱してしまいます。そのため、毎日計画表を見直すことでやるべきことを整理していました。課題の種類もグループワーク（プレゼン/資料作成/実験レポート）、オンライン課題、個人レポート、実験の前準備課題などあります。

## 留学前後で変わったと感じること

毎日の授業や多くの課題をこなしたおかげで、専門的な英語力が身についたと感じています。また、スケジューリングの能力も付いたと思います。

## 留学の成果

英語力や専門性が向上しただけでなく、忙しい中でも運動したり、友達と遊んだり、休憩したり自己管理能力が高くなったと感じています。

## これから取り組みたいこと

アメリカで学んだ信号処理と分野の理解をさらに深めると同時に、人工知能など研究に必要となる学問の勉強に取り組み、国際学会での発表を目指します。

## このプログラムへの参加を考えている学生へのメッセージ

英語力の心配をする人もいるかもしれませんが、英語や専門を学ぶ意欲も大切だと思います。意欲があれば自然と学ぶ機会が巡ってくると思います。

また、どこの大学に行くにしても、海外の大学に行くと、そこで学ぶ学生と話をすることはとても大切だと思います。

